



「大和ミュージアム」を見てきた

大和ミュージアムで

呉に「戦艦大和ミュージアム」がある。映画の為に作られた十分の一の模型が展示してある。平清盛の開いた音戸ノ瀬戸への途中にある為、観光客が多い。

「大和」って何だろう

口径46センチの大砲で一トン半の砲弾を42キロ先まで飛ばす。その為の大きな船体、遠くまで見通す照準器、航空機から守る対空砲。艦首の水面下が球状で抵抗が減り燃料が少なく済む。

当時世界トップクラスの技術が使われたと、ボランティアが説明し、客が頷いている。「でも、そっかな？」

戦艦は結局は大き

な弾を遠くに送る機械。同じ「弾」を飛行機ならもっと遠くに正確に運べる。太平洋戦争開戦時、航空隊は真珠湾で米戦艦アリゾナ等を撃沈し、マレー沖で英戦艦プリンスオブウェールズ等を撃沈。日本戦艦の出番は無かった。

無用の長物？

無用の長物？

日本海軍自身が戦艦の時代の終わりを証明していた。それなのに巨費を費やし戦艦大和を作り、結局、米航空隊に沈められた。

それだけの巨額の戦費を社会資本の充実に向ければ、戦争で中国などに被害を与えることも無かった筈。それを、分かる展示をして欲しい。

皆さんはどう思われますか？

五月六日は休刊します

吉浦漁港

(広島県呉市)



呉市の市街地から山一つ隔てた所に故郷「吉浦」がある。戦前、軍港「呉」を避けた瀬戸内航路の商船で賑わった。今は定期航路も無い小さな漁港だ。

波が静かで、魚の豊かな瀬戸内海。漁に大きな船は要らないのだろう。小さな魚船が沢山停泊していた。

瀬戸内海は潮の干満の差が大きい。昔、岸壁は階段のような「雁木」になっていた。三、四十年前、改修された。

この絵を描いた時は引き潮で海面が大きく下がっていた。そんな時でも船に乗れるよう梯子がいくつも設けられていた。

下水道の普及で海はともきれいな海になった。海鵜が一羽泳いでいた。いったん潜ると、なかなか出て来ない。